

志村圭志郎先生より、現在ご関心を持っておられる郷土史に関するご一文をいただきました。付録として掲載させていただきます。

＜付 録（特別寄稿）＞

松阪及び松阪近郷から輩出した近世のナチュラリスト

志村圭志郎（元三重大学助教授）

加藤枝直 国学者・歌人

元禄五年(一六九二)十二月十一日生、天明五年(一七八五)八月十日没、九十四歳、本姓、橘。名初め爲直のち枝直。号、南山。

加藤尚之の男。伊勢松坂に生まれる、子千蔭。江戸町奉行大岡越前守忠相配下の与力。著作には、多くの歌論と、ここでは青木昆陽が「蕃語考」を著わしたが枝直はこの著作に力があり昆陽を推挙した。また枝直はこの甘藷に関し「甘藷申上其外書付」がある。

植村政勝 本草家

元禄八年(一六九五)生、一安永六年(一七七七)一月八日没、八十三歳。名、政勝・正勝。通称、左平次・左兵衛次。号、新甫。

植村政恭の男、松坂大津村杉の人。宝永七年(一七一〇)和歌山藩御庭方に召され、享保元年(一七一六)吉宗の將軍就任に従い江戸に移った。同五年、駒場薬園の開設にあたり園監となる。また、幕府採薬使として三十余年にわたり諸国の草木の実地踏査を続けた。著作に、植村左平次薬草御用留、採草風土記、採薬記抄録、諸国奇跡、諸国珍変採薬記、諸州奇跡談、諸州採薬記、植村氏蒙台命諸国巡行御書上写など。

野呂元 文医者、本草家

元禄六年(一六九三)十二月二十日生、宝暦十一年(一七六一)七月六日没、六十九歳。幼名、源次。字、元文。号、連山。

高橋重英の次男、松坂大石の対岸の多気郡勢和村波多瀬の人。正徳二年(一七一二)医師野呂三省の養子となり、京都に出て、医を山脇玄修に、儒を並河天民に、本草を稻生若水に学ぶ。享保五年(一七二〇)幕府の採薬御用として江戸に出、元文四年(一七三七)幕府医官となった。同五年、將軍徳川吉宗の命でオランダ語を学び、寛保元年(一七四一)より通詞を従えて、江戸に参府したオランダ商館長の随行医師らと対話し、オランダ動物書や本草の和解を著した。延享四年(一七四七)寄合医師となる。著作に阿蘭陀禽獣虫魚図和解訳、阿蘭陀本草和解訳、狂犬咬傷治法、狂犬薬治方採薬筆録、野呂元文采薬手翰、本草綱目記聞、救荒本草並野譜、御府阿蘭陀本草など。

丹羽正伯 本草家

元禄四年(一六九一)生、宝暦六年(一七五六)四月十四日没、六十六歳。名、貞機・元機。字、哲夫。通称、正伯・昌伯。号、称水齋。

医師丹羽徳応の長男。伊勢松坂の人。京都に遊学し、稻生若水の門で医学と本草を学ぶ。のち松坂で医業を継いだ。享保五年(一七二〇)江戸に呼ばれ、幕命により採薬使として各地で採集に携わった。同七年、幕府の医師となる。また幕府の薬園管理にあたり、和楽攷会所の指導も行ったほか、若水の「庶物類纂」の増修を完成させた。著作に救民薬方編、佐渡採薬記、庶物類纂編、丹羽正伯物産日記、普救類方編など。

＜文献＞

木村陽二郎 江戸期のナチュラリスト
朝日選書 363
国書人名辞典 岩波書店